第２章 尼崎市の地域福祉を取り巻く現状と課題(本編 P8～P35)

- 少子高齢化などにより、支援を必要とする人は今後も増えていくことが予想されます。
- 地域社会のつながりが希薄になる中で、支援を必要とする人の抱える課題は多様化・複雑化し、様々な年齢層の方が課題を抱えながら社会的に孤立化している状況も見られます。
- 地域では様々な活動が行われ、新たな担い手も育まれつつありますが、支え合い活動を充実させるためには、より一層、担い手の確保が大きな課題となっています。
- 尼崎市は多様な人材や企業、団体が集まり、様々な活動が行われるなど、多様性や包容力という“つよみ”を持つまちです。

アンケート調査や計画策定部会の意見などから見えた主な課題

1 福祉学習による福祉コミュニティづくり

住み慣れた地域で安心して暮らすためには、そこに住む人々全てが福祉サービスを必要とする人々を「困った人たち」として排除するのではなく、正しい理解のもと地域社会を構成する一人として包摂（ほうせつ※）していくことが必要です。※つつみ込むこと

そのためには、市民一人ひとりが学びの機会を通じて、多様性を認めあうとともに、また主体的に地域福祉活動に参加、実践する意識を高めることが必要です。

2 地域福祉の担い手の発掘、育成

地域の担い手が高齢化する一方で、定年退職後のシニア世代や、若い世代が地域福祉の担い手として十分参画できていない現状もあります。

こうした人たちが地域福祉の担い手として、気軽に参画できるきっかけをつくり、それを通じて、地域福祉活動のキーパーソンとなる人を発掘・育成することが必要です。

3 地域の社会資源の情報共有と活用

高齢化等により地域福祉の担い手が不足している現状があります。地域の多様化・複雑化する生活福祉課題には、住民、多様な地域福祉の主体が参画することが必要ですが、地域の多様な活動団体の情報を一元的に把握できずに、十分につながっていない現状があります。

こうした社会資源を把握し、地域の課題解決につなげていくことが必要です。

4 交流を通じた孤立防止

地域では、高齢者を中心に孤立化が課題となるほか、貧困など様々な課題を抱える子どもが安心して過ごすことのできる場所が必要とされています。

社会的孤立を防止し、子どもから高齢者まで誰もが気軽に参加し、交流を通じて、地域住民が地域の様々な課題について関心をもち、話し合う場づくりを進めることが必要です。

5 課題を抱えた人を支える仕組づくり

ゴミ出しを頼める人がいないといった日常生活の問題から、虐待や孤立死、自殺などの深刻な問題まで、誰もが暮らしの様々な場面で課題に直面する可能性があります。

また、福祉制度が充実する一方で、必要な人に支援が行き届かなかったり、制度に当てはまらないことで支援を受けられないといった課題があります。

課題を抱えた市民を早期把握し、公的サービスとともに地域の支え合いなどを含めた包括的な支援につなげることが必要です。